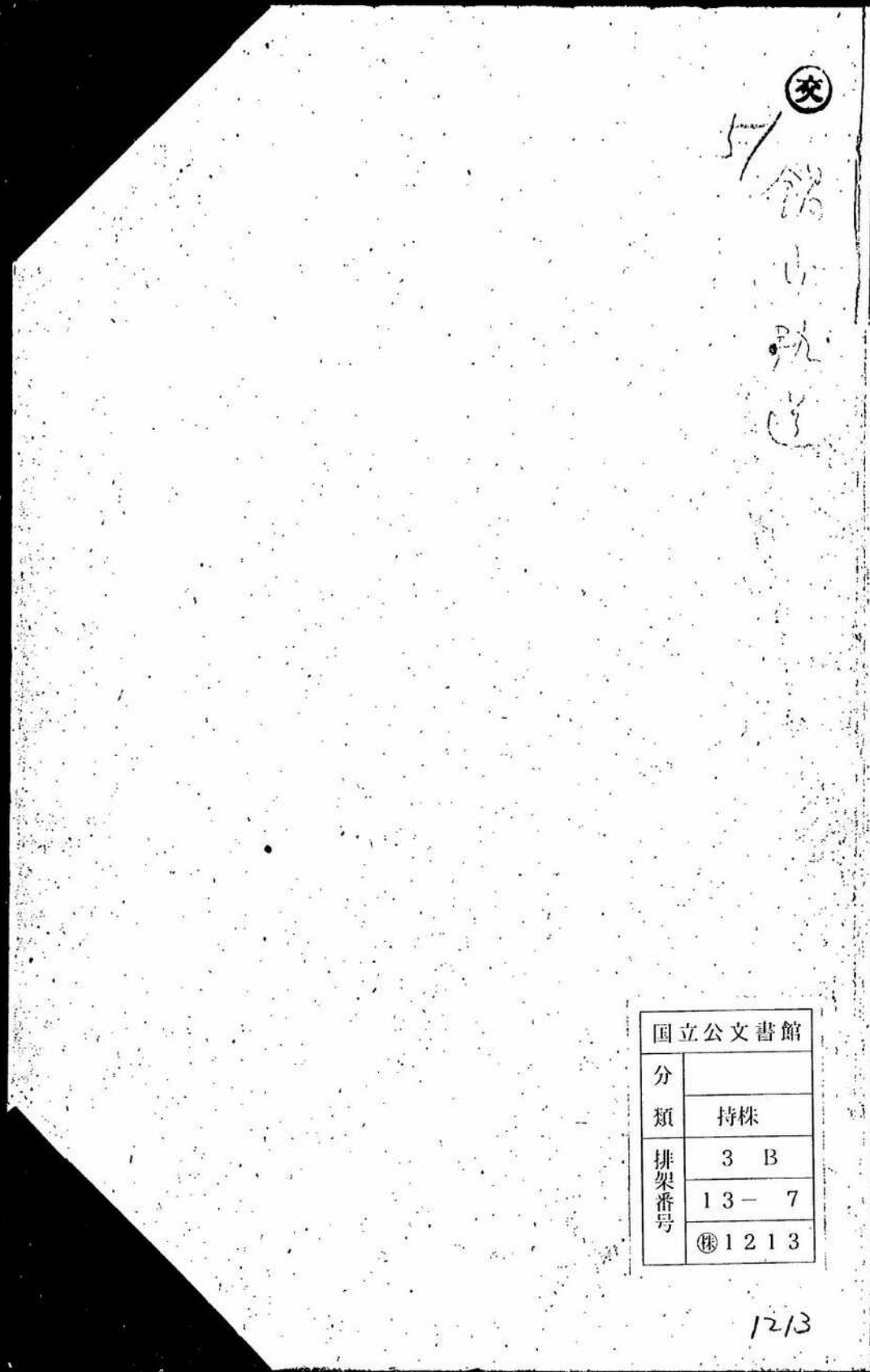


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



交

57  
領山軌道

乙

株式處分

讓受財産

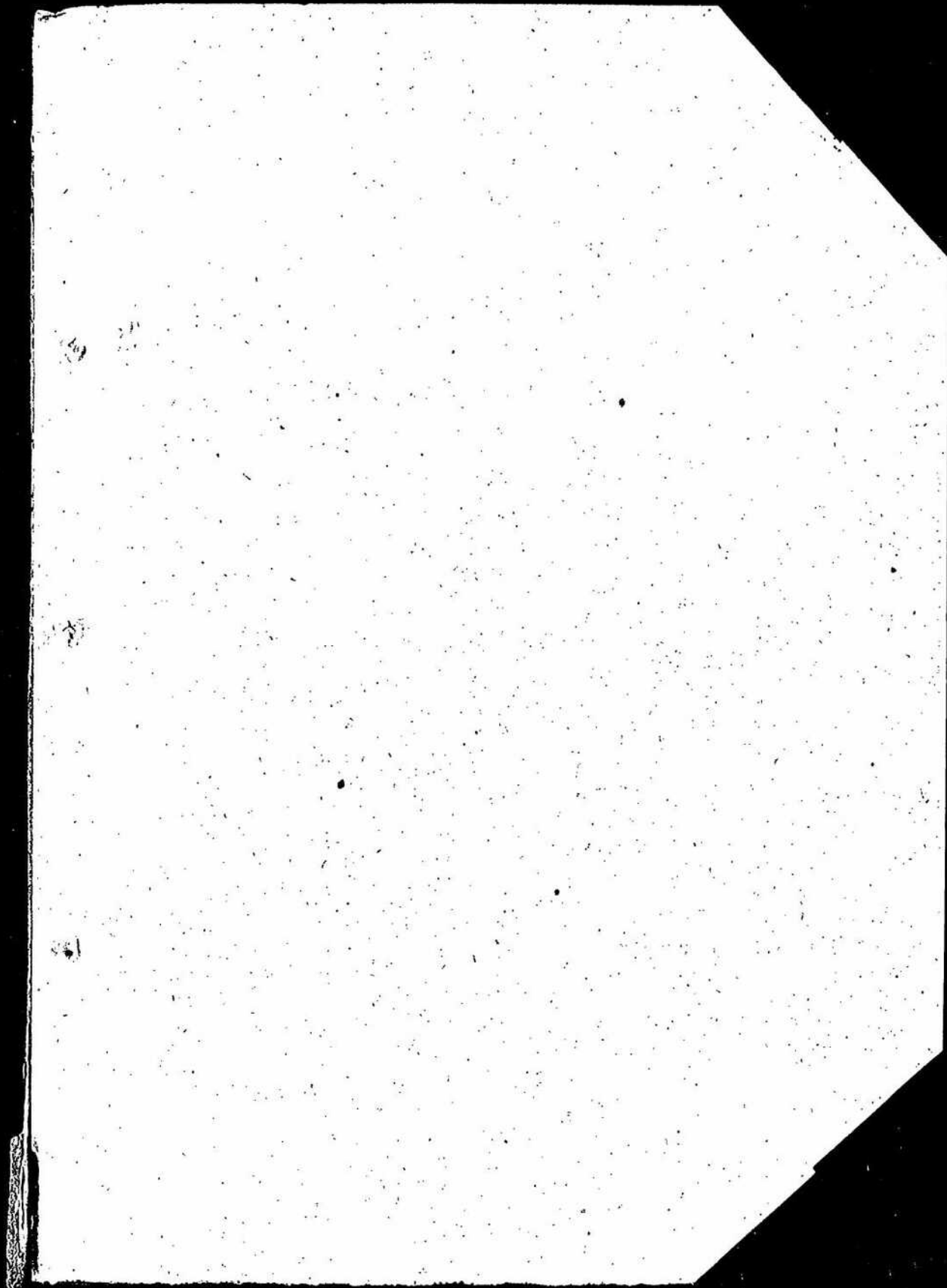
74.1.1

一

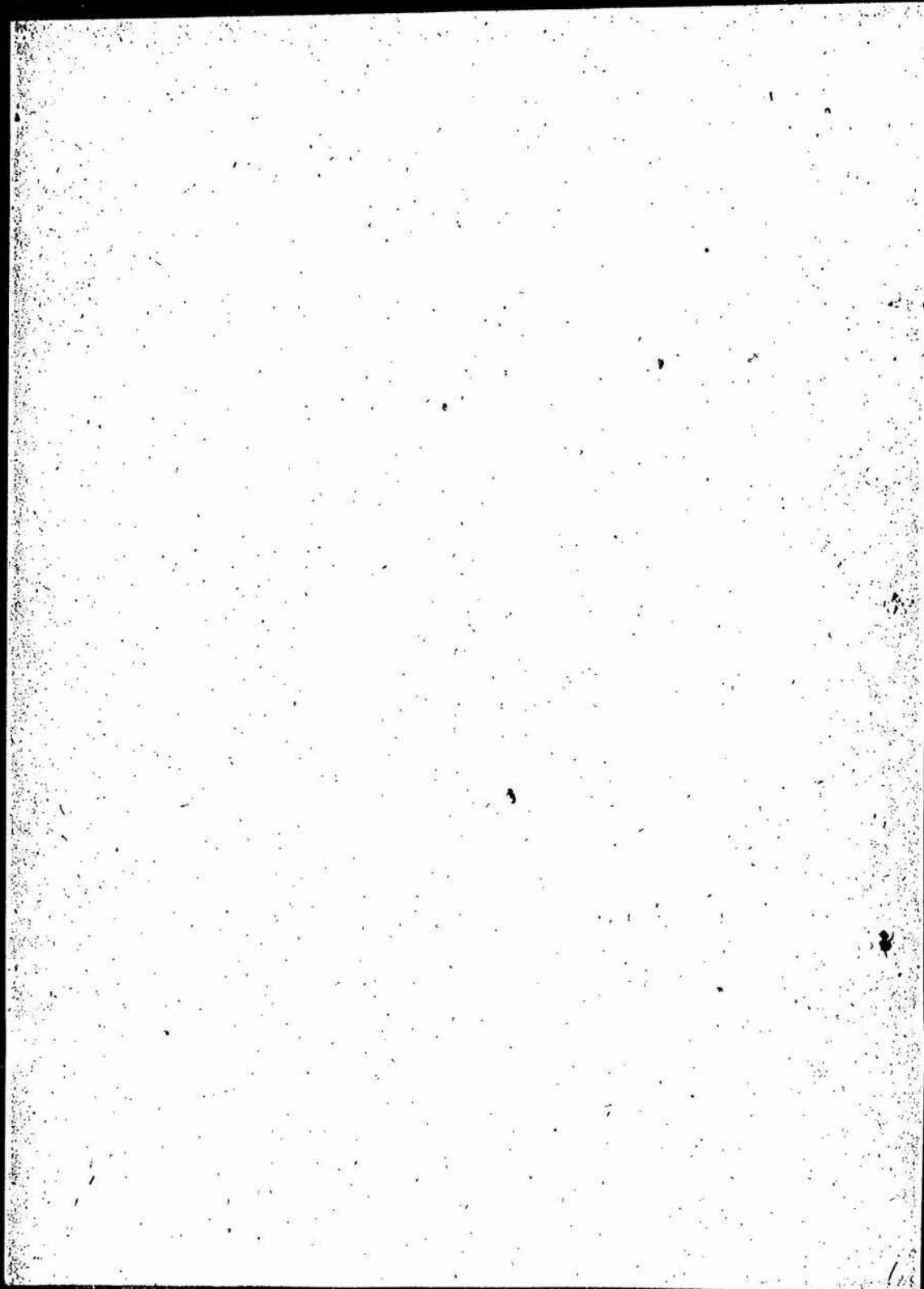
領山軌道株式會社

国立公文書館	
分類	持株
排架番号	3 B
	13 - 7
	⑩ 1213

1213



裏面白紙



回 議 書

起 案	昭和23年4月15日
決 裁	昭和23年5月4日
備 考	

決

委員長		監査委員	
常務委員		部 課 長	
所 長		企 業 部	
所 長		秘 書 課 長	
所 長		企 業 課 長	
所 長		企 業 課 長	

徳山軌道株式会社(元所有者古河鉱業株式会社)に關する處分  
 計畫別紙一通の御詮議願ハキス

證 券 處 分 計 畫 に 關 する 件

持株會社整理委員會

裏面白紙

證券處分計畫

持株會社整理委員會

一 指定證券、種類、銘柄及數量

鉛山軌道株式會社株式(元所有者古河鉛業株式會社) 一三〇株

右は餘株數三五〇株に對し五、四〇%に當り

二 處分方法

従業員、役員及此方居住者に對する處分

三 賣却價額

二五圓(参考書類参照)

四 對價受領方法

現金一時掛

五 處分の時期

承認より次第

裏面白紙

書 議 回

一、價額算定。基礎	
A 参考資料	
併込金額	二〇圓
持株会社帳簿價額	二〇圓
財産税に於ける評價額	二〇圓三六錢
最近。気配相場	なし
資産評價額	三二圓
持株会社売却希望價額	二五圓
買手人希望價額	二〇圓

持株會社整理委員會

( )

裏面白紙

書 議 回

B 決定事情

当社は栃木縣下都賀郡銀山地方の石灰石・石灰粉の輸送を独占的に行つ  
 てゐる。車輛軌道の考案甚しく且経費大にして現在の所収益状態ははな  
 りかしくないが、同地方に於ける独占的地位・運賃値上げによる増収見込及業  
 務の増進を考慮すると、是は買受人の希望借額ニ〇回は安き感ありと  
 五圓を以て是を借額とした。

借入 本借額よりには買受人側に於て諒解済あり。

持株會社整理委員會

裏面白紙

書 議 回

三、會社、概要

A. 會社名 能山軌道株式會社

本社所在地 栃木縣下都賀郡寺尾村大字能山一番地

事務所 栃木市栃木駅前

創立年月日 明治三十年十月十七日

資本金 五萬圓(全額株式) (全額株式)

事業内容 貨物輸送

従業員數 三十四人

B. 會社の状態

制限會社で非特別終了會社である。

C. 會社の業績

(1) 資本の構成(別紙)

持株會社整理委員會

裏面白紙



書 議 回

(B) 正味資本		八〇,〇〇〇	
(C) 一株平均額		三二円	
(一) 收支状況・利益率及配当率			
	二十年度	二十一年度	二十二年度
収入	九三 <small>千円</small>	一六七 <small>千円</small>	五三一 <small>千円</small>
支出	九五	一六六	五二九
差引	=	-	=
利益率	四%	二%	四%
配当率	毎	毎	毎
D. 株式			
総株数	二五,〇株	株主数	一九名
主名株主名			

持株會社整理委員會

裏面白紙

書 議 回

持株會社整理委員會

一三〇株

五二四%

持株會社整理委員會

E. 會社の役員

専務取締役 片岡 毅藏 (代表取締役)

常務取締役 岡田 嘉右衛門

取締役 小林 龍二

監査役 大西 勝衛

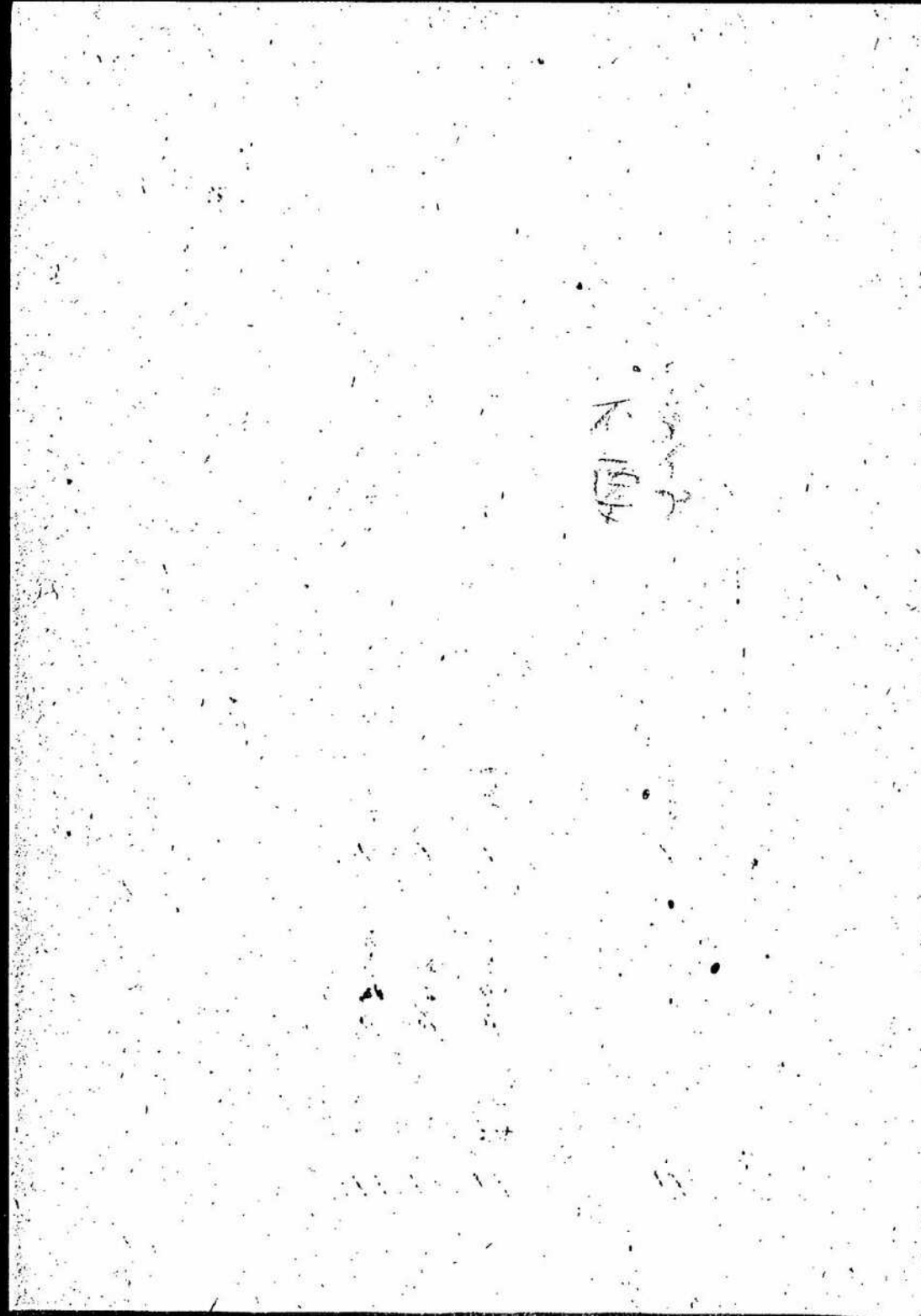
( )

裏面白紙

正買受人ニ關スル表

計		地方居住者	役員	従業員	
五〇名		二〇名	三名	三三名	買受希望者數
/	/	/	/	三三	従業員總數
/	/	/	/	一〇〇%	買受希望者ノ總數ニ對スル百分比數
一五〇株		四九〇株	七五株	一〇五株	買入希望量
•		三七・四%	五・七%	五六・九%	處分總株(口)數ニ對スル百分比數
最高 最低 株株		最高 最低 一七株株	最高 最低 一五株株	最高 最低 一〇五株株	買入希望數量

右買入ニヨリ各人ノ所有スルコトトナル株(口)數ハ總額ノ一%ヲコエルコトニナラナイ



Handwritten text, possibly a signature or initials, located in the center of the white area.

別表 貸借對照表

記名

昭和二十二年九月三十日現在

團

資 産		負 債	
科 目	帳簿價額	科 目	帳簿價額
	評價價額		評價價額
部 要		部 要	
固定資産	六八	資本勘定	八〇
建設費	六八	資本金	五〇
棚卸資産	一七	諸積金	二九
在庫用品	一七	後物繰越金	一
当座資産	三八	買掛	一五六
収入未済金	三〇	引当金	五
預金	一	支取未済金	八九
現金	三	借入金	六二
其他資産	一三		
假払金	一三		
合計	二三六	合計	二三六

裏面白紙

古調外第一三六號

昭和二十三年四月六日

東京都千代田區丸ノ内貳丁目  
古河鑛業株式

持株會社整理委員會  
證券部第二課 御中



讓渡證券處分に付希望價格御照會に對する回答

- 一、鍋山軌道株式會社株式 壹、參壹〇株  
但し一株額面貳〇圓 一株拂込貳拾圓
- 一、賣却希望價格 一株貳五圓也
- 一、絕對にこれ以下の價格でないこと
- 一、價格算出根據

弊社帳簿價格は一株に付貳〇圓であつて、これは拂込金が基礎となつて居るのであるが、賣却希望價格は當社に提出しある同社の最後の決算である昭和二十一年九月三十日締切の決算を基礎として別記の通り一株に付き金貳五圓也と決定したもので、これは同社側と諒解済のものである。

絕對に右價格以下でないことを希望するのは、この價格は同社側と諒解のあつたもので、變更増額することは好まぬが其の後の同社の決算では更に正味財産は増川し且其の時價評價差益をも相當に見積ることが能の實狀にあるからである。

(1) 昭和二十一年九月末現在正味財産

資 産		外 部 負 債	
建設費	六七九〇・二三	身元保證金	二九四・九四
主要用品	四八五〇・四五	支拂未済金	一四三八・七〇
收入未済金	一〇六四三・五〇	借入金	五、六〇〇・〇〇

裏面白紙

假拂金	三、七六七・二〇	假受金	一、三二〇・〇〇
預金	一、二六二五・二八		
現金	三、一五二・〇九		
計	一、四五五九四・七五	計	六、七六〇三・六四
差引正味財産	七、七九九一・一一		
一株に付	三一・一九五		

(2) 拂込資本金 二〇・〇〇〇

右(1)(2)の中値を併え一株貳五圓を以て賣渡希望價格とする。其の理由は同社の収益力は自助車運送との競争もあり又風水害等による修理費も可なり多額を要する場合もあるので非戦災會社ではあるが、必ずしも樂觀を許さぬ事情あることを考慮して割引をしたものである。

同社の正味財産は其の後の決算及び最近の中間假決算では一株に付三圓〇〇或は六・〇〇の増額を見込み得るものの如くである。

以上

證券處分計畫

一、指定證券の種類、銘柄及數量

鍋山軌道株式會社株式（元所有者古河鑛業株式會社） 一、三二〇株

右は總株數二、五〇〇株に對し五二・四%に當る

二、處分の方法

従業員、役員及地方居住者に對する處分

三、賣却・償還額

二五圓（参考書類参照）

四、對價受領の方法

現金一時拂

五、處分の時期

承認あり次第

裏面白紙



参考書類

一、償額算定の基礎

A、参考資料

拂込金額	二〇圓
持株會社帳簿債額	二〇圓
財産税に於ける評價額	二三圓三六錢
最近の氣配相場	なし
資産評價額	三二圓
持株會社売却希望價額	二五圓
買受人希望價額	二〇圓

B、決定事情

當社は栃木縣下都賀郡鍋山地方の石灰石、石灰粉の輸送を獨占的に行つてゐる、車輛、軌道の老朽甚しく且經費大にして現在の所収益状態ははかばかしくないが、同地方に於ける獨占的地位、運賃値上げによる増収見込及正味資産等を考慮するときは買受人の希望價額二〇圓は安き感あるので二五圓を以て處分價額といたしたし

備考 本價額については買受人側に於て諒解済みである

三、會社の概要

A、會社名

鍋山軌道株式會社

本社所在地

栃木縣下都賀郡寺尾村大字鍋山一番地

事務所

栃木市栃木驛前

創立年月日

明治三十年十月十七日

資本金

五万円 (全額拂込済)

事業の内容

貨物輸送

従業員數

三十三人

B、會社の状態

有限會社で非特別經理會社

d、會社の察見

(1) 資本の構成 (別紙)

正味資産 八〇、〇〇〇圓

一株當評價額 三二圓

(2) 收支狀況・利益率及配當率

裏面白紙

	二十年度	二十一年度	二十二年度
収入	九三	一六七	五三一
支出	九五	一六六	五二九
差引	二	一	二
利益率	四%	二%	四%
配當率	無	無	無

D、株式

總株數二、五〇〇株

株主數一九名

主な株主名

持株會社整理委員會 一、三一〇株 五二、四%

E、會社の役員

專務取締役 片岡 藏 (代表取締役)

常務取締役 岡田 嘉石衛門

取締役 小林 龍二

監査役 大西 勝衛

裏面白紙

別紙

# 貸借対照表

記名

昭和二十二年九月三十日現在

印

資産		負債	
科目	帳簿価額	科目	帳簿価額
目	千圓	目	千圓
評	價	評	價
部	額	部	額
要		要	
固定資産	六八	資本勘定	八〇
建設費	六八	資本金	五〇
棚卸資産	一一七	諸積立金	二九
主要用品	一一七	後期繰越金	一
當座資産	三八	負債	一五六
収入未済金	三四	退職引當金	五
預金	一	支拂未済金	八九
現金	三	借入金	六二
其他資産	一三		
假拂金	一三		
合計	二二六	合計	二二六

裏面白紙

証券處分計畫

一、指定証券の種類、銘柄及數量

鍋山軌道株式會社株式（元所有者古河鑛業株式會社） 一、三二〇株  
右は總株數二、五〇〇株に對し五二・四%に當る

二、處分の方法

從業員、役員及地方居住者に對する處分

三、賣却 價 額

二五圓（参考書類参照）

四、對價受領の方法

現金一時拂

五、處分の時期

承認あり次第

裏面白紙

参考書類

一、償還算定の基礎

A、参考資料

拂込金額	二〇圓
持株會社帳簿償額	二〇圓
財産税に於ける評價額	二三圓三六錢
最近の氣配相場	なし
資産評價額	三二圓
持株會社賣却希望償額	二五圓
買受人希望償額	二〇圓

B、決定事情

當社は栃木縣下都賀郡鍋山地方の石灰石、石灰粉の輸送を獨占的に行つてゐる、車輛、軌道の老朽甚しく且經費大にして現在の所収益状態ははかばかしくないが、同地方に於ける獨占的地位、運賃値上げによる増収見込及正味資産等を考慮するときは買受人の希望償額二〇圓は安き感あるので二五圓を以て處分償額といたしたし

備考 本償額については買受人側に於て諒解済みである

裏面白紙

19(12)

三、會社の概要

A、會社名 鍋山軌道株式會社

本社所在地 栃木縣下都賀郡寺尾村大字鍋山一番地

事務所 栃木市栃木驛前

創立年月日 明治三十年十月十七日

資本金 五方圓 (全額拂込済)

事業の内容 貨物輸送

従業員數 三十三人

B、會社の状態

判限會社で非特別經理會社

C、會社の業態

① 資本の構成 (別紙)

② 正味資産 八〇、〇〇〇圓

③ 一株當評價額 三二圓

④ 收支狀況・利益率及配當率

裏面白紙

	二十年度	二十一年度	二十二年度
收入	九三 千円	一六七 千円	五三一 千円
支出	九五	一六六	五二九
差引	二	一	二
利益率	四%	二%	四%
配當率	無	無	無

D、株式

総株数二、五〇〇株 株主数一九名

主な株主名

持株會社整理委員會 一、三二〇株 五二、四%

E、會社の役員

專務取締役	片岡 藏 (代表取締役)
常務取締役	岡田 嘉右衛門
取締役	小林 龍二
監査役	大西 勝備

裏面白紙



別紙 貸借対照表

昭和二十二年九月三十日現在

資産部		負債部	
科目	帳簿価額 千圓	科目	帳簿価額 千圓
固定資産	六八	資本勘定	八〇
建設費	六八	資本金	五〇
棚卸資産	一一七	諸積立金	二九
主要用品	一一七	後期繰越金	一
當座資産	三八	負債	一五六
収入未済金	三四	退職引當金	五
預金	一	支拂未済金	八九
現金	三	借入金	六二
其他資産	一三		
假拂金	一三		
合計	二二六	合計	二二六

裏面白紙

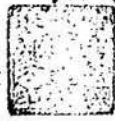
昭和二十五年三月五日

株式買入申込書

昭和二十五年三月五日

鍋山軌道株式會社

車務取締役 片岡春藏



裏面白紙

株式買入申込書

一 買入希望証券、銘柄種類、数量

銘柄 鍋山軌道株式會社

種類 株式 (額面貳拾圓、金額拂込済)

数量 一三一〇株

二 買受人 総人員 五六人

従業員 三三〇人 七四五株 全従業員に対する百分比 一〇〇%

役員 三人 七五株

首筆務所所在地  
居住者(地産居住者) 二〇人 四九〇株

三 買入希望價格

一株當り金貳拾圓

四 代金支拂方法

一時拂 (現金)

五 買入希望時期

昭和貳拾參年五月一日

参考資料

(一) 價格算出基礎

A

1. 一株當拂込金額 金貳拾圓 (金額拂込済)

2. 持株會社帳簿價格 金貳拾圓

3. 賦産税法ニ於ケル評價額 金貳拾參圓參拾五錢

4. 氣配相場 市場性ナシ

5. 一株當正味資産價格 金參拾七圓貳拾八錢

6. 持株會社賣却希望價格 金貳拾五圓

B 買入希望價格算出根據

昭和參年年度 (昭和十九年十月一日ヨリ二十年九月三十日ニ至ル) 以降參年間無配當

ニシテ昭和二十年年度ハ既ニ運轉資金ニ窮ニテ借入金參万圓ヲ増加シ今後モ此ノ情勢

續クハ運賃率引上ノ実施サレリ限リ返済ノ見透シ相立又ハ實情ナリ

依テ本年度モ無配當ヲ豫想スルニナリ (收支見込別紙添付)

鞅時中、酷使ニ依リ軌道機關車、貨車等ノ老朽甚キモ復旧容易ナラズ

故當分無配當續ハシ

斯レ現状ナリ以テ額面ニテ買入ヲ希望スルモノナリ

ニ當社ノ概要

A 會社名

鍋山軌道株式會社

所在地

栃木縣下都賀郡幸尾村大字鍋山一番地(登記面ノ所在地ニテ現共  
事務所ハ栃木市栃木駅前事務所ノ三十リ)

設立年月日

明治三十一年十月七日

資本金

金五万円(全額拂込済)

發行株數

貳千五百株(一株券及十株券)

事業ノ内容

貨物輸送事業ニテ延長軌道一五四軒ナリ

創立當時ハ鍋山人車鐵道株式會社ト稱シ軌道上ヲ人カヲ以テ貨物旅客ノ

兩者ヲ輸送スルモ昭和十二年十月二十六日瓦斯機関車ヲ使用スルトニ改メ社名ヲ

現存ノ鍋山軌道株式會社ニ變更シ同時ニ旅客輸送ヲ廢シテ貨物輸送事業

トナリ

輸送貨物ハ幸尾村鍋山地区ニ産スル石灰石及石灰粉ト石灰粉焼成用ノ石灰  
ヲ主トシ他ニ鑛石 砂利 木材 煤等ノ火量アリ

戰時中ハ一時月間參千ト以上ヲ輸送シタルコトアルモ現在ハ軌道車輛等ノ

老朽ヲ月間壹千五百ト輸送能力トスルモノナリ

出荷主ハ石灰業者五工場ヲ主トシ鍋山地区ノ生産工場ヨリ栃木駅専用車ハ

近ノ輸送ニテ之ハ始終莫クナスモノナリ

軌道ニ尺ニテ省線ニ連絡セズ運賃率ハ併集制ナリ

工場事業場ノ數

營業事務所 一 停車場 三 停留所 六

(事務所ハ幸尾村  
停車場ハ幸尾村  
停留所ハ幸尾村  
幸尾村  
幸尾村  
幸尾村)

機械及設備

瓦斯機関車 二五九台(一三台計五台)

二軸積木造貨車 五〇台

軌道延長 一五四  
六軸軌道 一八九  
九軸 三五〇

工場事業場ノ構造及建坪數

木造瓦葺 三棟 七八九坪

木造トタン葺 二三八九四 内吹抜廊下作ノモノ 八三七五アリ  
 従業員数

B  
 役員数 取締役三 監査役一 計 四人  
 男 三 女 一 計 四 人

古河鑛業株式會社ノ子會社ニシテ制限會社ナリ  
 親會社ノ所有株式一三〇株ハ昭和三二年五月三日持株會社整理委員會ニ  
 譲渡セラレタルヲ以テ名義ノ書換ヲ同日附ヲ以テ了シテ  
 特別經理會社ニ非ラス

C 最近ノ貸借対照表 財産目録 損益計算書 利益金処分方法  
 昭和三年度 昭和三年度 昭和三年度 分ヲ別冊ノ通り添付シテ外別紙  
 ヲ以テ最近ノ貸借対照表ヲ説明ス  
 最近ノ配當率  
 昭和三年度以降配當ナシ  
 利益率(対坤込資本率)左ノ如シ

昭和三年度	損失金	二三三三 <sup>四</sup>	損	四六七
昭和三年度	利益金	一〇六〇七四		二一 <sup>二</sup>
昭和三年度		一九三五六三		三八七

D 株主数 株主名及其ノ所有株数  
 社員ニシテ株主名者ナシ  
 株主表別紙ノ通り

E 當社ノ役員  
 専務取締役 片岡 稔藏 (代表取締役)  
 常務取締役 岡田 嘉次右衛門  
 取締役 小林 龍二  
 監査役 大西 勝衛

F 當社ノ現状並ヒニ將來ノ見透シ  
 戦時中ノ酷使ニ依リ軌道車輛共ニ改修ヲ要スルモノ多キモ資金關係ニテ  
 着手困難ナリ  
 現在ハトラック不足ノ為當社ノ輸送貨物ハ不足ナラサルモ過去ノ例ニ依リ將來ハ

裏面白紙

トシノノ圧迫ヲ受クルモト懸念サル  
 従業員ノ待遇改善ハ、イニフヒ、高進ニツレ其ノ必要ハ充分認めルモ、賦課無キ為  
 姑息的範圍ヲ出スルニ至ラズ、然レ現行運賃収入ニテハ、月々ノ人件費ハ其ノ六〇%  
 以上ノ有様ヲ取テ、極限ヲ越エ、之以上ハ運賃率ノ改正ガ認可セラザル限リ  
 不可能ナリ、  
 社債ヲ強固ニ經營ノ安定ヲ圖ルニ一大投資ニ依リ、電平又ハ蒸氣機内  
 車ヲ入レ省線ト連絡セシムルコトニ依リ、輸送量ヲ能率的ニ増大スルニモ現  
 下ノ諸種ノ隘路ハ全ク此ノ計畫ニ見透シテ與エズ、  
 若シソレ昨年九月ノ関東各地ノ大水害、如キケ、能末ニ當止最大ノ水害ナリ  
 架設ニアル尻内橋ノ流失ヲ見カ、當社ノ独力ヲ以テテハ再起難ト不可能高  
 ルハ、該木橋ハ速カラズ、大修理ヲ要スルモト見受クルモ、資金難ハ在昔其  
 ノ着エラ見送ラシ居ル次第ナリ、  
 右ニ依リ經營ハ頗ル困難且ツ不安定ナリ、  
 會社ノ編成替並ニ特種會社及減資  
 該當事項ナシ

増資

松小會社コトテ増資借入金等ハ直ケニ經營ニ重大圧迫ヲ来スコトナリ  
 事業ノ將來ニ對シ確固ニ見透シ立タサル現在、漸行至難ナルヲ以テ未ダ  
 其ノ予定ナシ

三 買入希望者ニ関スル表

別表所定様式ニ依リ添付ス  
 尚従業員ニシテ買入希望ナキモノ、調書モ別表トシテ添付ス

四 當社が従業員全部ニ賣却豫約ノ申込ヲシテコトヲ證スル書類寫

二月廿七日従業員ノ集會ヲ開催シ、労働基準法ニ依ル就業規則屆出ニ関シ  
 意見ヲ聴取シ、此際様式公開ノ事情ヲ説明シ、尚別紙寫、等廣告ヲ各  
 職場ニ掲示シタルモノナリ

五 持株會社整理委員會ト連絡者

専務取締役兼庶務係長 片岡 稔 藏  
 栃木市栃木駅前 鍋山軌道株式會社 電話 栃木三〇七番

裏面白紙

二當社概要下備考ノ項ノ現決算期末ノ收支見込

収入

22/10 - 23/1. 迄ノ収入 376,318.84  
 23/2. 以降 輸送予定月 1500 元迄 運賃収入 6600 元 運賃収入 99,000.00  
 雑収入 5000.00 (不用品処分等)  
 (5000.00 + 99000.00) x 8 = 832,000.00  
 当社収入合計 376,318.81 + 832,000.00 = 1,208,318.81

支出

22/10 - 23/1. 迄支出 368,206.95  
 23/2. 以降 支出予想  
 14月 人件費 52,000.00 従業員 30人分 平均 1700円  
 物件費 35,000.00 燃料油 車費用 木材 枕元車部品等  
 修繕料 8000.00 社外注文分  
 経費 11,300.00 通信費 10000 雑費 1500 備置料 3000 地代 3000  
 計 106,300.00 (14月分予想)

106,300.00 x 8 = 850,400.00 (7%未定) 23/2. 31  
 368,206.95 + 850,400.00 = 1,218,606.95  
 1,218,606.95 - 1,208,318.81 = 10,288.14 7%未定

運賃率引上認可申請中ナルモ未認可ナリ

先ト作ラ若シ認可セズレバモ イニラレシノ高直ハ待遇改善物価昂騰、修繕料ノ値上リ等ニテ  
 過不足ナク操作スルコトヲ甚ク困難ナラシムル情勢ナリ

故ニ年々未ニ於テ 五千円程ノ欠損ニテ止メ得ルハト思考スルモ 自信ナシニ依テラシムル  
 毛亦無配当ノ金儀ナキモノト現在ニ於テ私力ニ覚悟シ居ルモノナリ

裏面白紙

追加参考表

一 収入未済金 (昭和三十三年一月末現在以下各項同シ)

計金 二六〇、一三三、三七 (運賃)

前月下旬(十六日)月末迄)分ノ貨物運賃ニシテ翌月十日迄ニ收入スル例ナリ

収入不能ノモノナシ

二 假拂金

計金 三一、四三八、〇一

荷主荷役貸金立替 二二、七四〇、八二

購入品代予納金 六、四六二、五一

其ノ他雑立替金 二、二三四、六八

回收不能ノモノ無キ見込三十ナリ

三 支拂未済金

計金 七四、一八六、四〇

車輛用木材代 九、三九一、四〇

代燃車用木炭代 四、五、三七五、〇〇

機関車部分品代 一、八、五四〇、〇〇

借入金利息 八、八〇、〇〇

四 借入金

計金 八、一六〇、〇〇

親會社借入金 五、一六〇、〇〇 (利率五%及五五%)

個人借入金 三、〇〇〇、〇〇 (利率五%)

裏面白紙



株主名表

昭和三十三年三月八日現在

株数	氏名	摘要	株数	氏名	摘要
一三〇	持株會社整理委員會		二〇	高田明	
二九〇	石川省三	昭和三十三年三月八日現在	一〇	横倉勝太郎	
二八	長谷川よし		一〇	荒川宗七	
一一〇	田村政太郎		一〇	田村豊	
二七	田村佐重		六	廣沢岩吉	
二〇	横倉幾十郎		五	前沢木玄太	
一〇〇	岡田嘉右衛門		二	小林禮治	
五	長谷川展		二	岡田利雄	
四〇	木村福次郎				
四〇	熊倉龜太郎		合計	二五〇株	
三五	岡田はま			一九人	

裏面白紙

昭和二十一年度 (自昭和二十一年十月一日  
至昭和二十二年九月三十日)

### 第八拾參回營業成績

鍋山軌道株式會社

#### ◎營業報告書

##### ○株主總會

昭和二十一年十月三十日定時株主總會ヲ開キ左ノ件ヲ附議セリ  
第一號、第八十二回營業報告書、財産目録、貸借対照表、損益計算書並ニ益金処分案議決ノ件  
議決ノ要領、第八十二回營業報告書、財産目録、貸借対照表及損益計算書ノ承認ヲ經テ益金処分案ヲ原案  
通り議決セリ

第二號、監査役田村政太郎氏死亡ニ付弔慰金贈呈ノ件  
議決ノ要領、贈呈ハ取締役會ニ一任ノコトニ議決セリ

第三號、取締役一名辞任、監査役任期満了ニ付改任送任ノ件  
議決ノ要領、取締役ノ辞任ヲ承認シ補欠トシテ小林龍二當選就任ニ決シ監査役ハ大西勝衛當選就任ニ決ス

第四號、退職役員ニ慰勞金贈呈ノ件  
議決ノ要領、取締役會ニ一任ノコトニ議決セリ

第五號、役員報酬増額ノ件  
議決ノ要領、役員報酬増額案ヲ承認シテ之ヲ執行ノコトニ議決セリ

##### ○株主並ニ株式

当期ニ於ケル株式ノ総數ニハ増減ナキモ株主ニ於テハ一人加入シ三人脱退シ、尚株主ノ持株數ハ末尾株主名  
簿ニ示ス如ク異動アリテ、当期末ノ總數左ノ如シ

- 一、株主ノ總數 一九人
- 二、株式ノ總數 二五〇〇株
- 三、資本金 五万円(全額拂込済)

裏面白紙

○ 營業ノ概況

前年度ハ終戦後ノ混乱期ニシテ貨物ノ減少シ、生産モ稍々安定ヲ得、石灰石、石灰粉共ニ需要旺盛トナリ貨物ハ増加シタリ。然レモ運送力ハ戦時中ノ諸使ニ依リテ老朽磨耗甚クシテ若シク低減シ、加之燃料ノ入手難ニテ増送ニ努メタルモ前期ノ目的ヲ達スルコトヲ得ザリキ、然シ乍ラ收入増ノ目標ヲ増送ニ置キ陸路ヲ禁シテ前年ノ一五〇六九増ノ実績ヲ見ルヲ得アリ。

財界ノインフレ高進ハ其ノ歩ミヲ止メズ運送ノ障礙ヲ難ク財源ノ許ス限度ニ於テ待遇改善ヲ逐月実施シ未リタルモ追隨ヲ許サズ爲ニ員額削減スルニ及ビ補充難ク爲輸送ハ極度ニ苦難ノ道ヲ辿リタリ。

此ノ間ニ在リテ交通者一般ノ運賃引上げニ努メテハシテ三月一日第一次運賃値上げヲ實施シ貨物倍額ノ運賃トナリタルヲ以テ待遇ニモ影響ヲ及ボシ、現内閣ノ出現後所謂新物價体系ノ實施ニ依リテ物價ノ大幅引上げトシ、付テ貨物價ノ暴落ハ甚クシテ營業並ニ從業員ノ生活ヲ圧迫シ緊急措置ヲ講ズルノ必要ニ迫ラレ、此ハナク國庫空乏ニ一役ニ遊ル、コト約一ヶ月ノ八月一日第二次運賃率倍額引上げヲ實施スルノ急務ナキニ至リタリ。

在ニ於テ待遇ノ改善ヲ實施シ漸ク同運送社ノ待遇ニ雁行スル程度ニ達スルニ至リタル如シ、貨物價ノ暴落、貨物價ノ現物化難ク、買情ニ苦シミ下ラモ主要物資ノ入手ニ努メテ未ニ備エタルモ登タベキ設備ヲ表シタル物件貨修繕料新設軌道税並ニ一級税率ノ引上げ、各種保險料ノ増勢、通信費其ノ他ノ諸費ノ膨脹ハ收支ノ均衡ニ脅威ヲ未シ殊ニ購入品代ノ支拂が一時ニ増大シテ金融難ヲ結果シ營業ハ愈々樂觀シ得ザルモノアリ。

尚九月十五日ノ颱風ハ西毛尾尾面線ニ激甚ノ被害ヲ齎ラシ年度末ニ至ルモ復旧セズ雨後石灰石ノ輸送ニ重大支障ヲ未シ年度末掉尾ノ増送計画モ遂ニ動向不明ニシテ輸送力ノ回復ハ次第ナリ。

尚又敗戦ノ結果財國解体行ハレ株式ノ市場ハ暴落シ、運輸会社整理委員會ニ移リ資本関係ニ於テ変貌ヲ呈スルニ至リタリ。

前述ノ情勢下ニ於テ輸送量ハ前年度ニ比シ一五〇六九増ヲ得シ收又ニ於テ八一、九三五、六三ノ益金ヲ計上スルヲ得タリ。

次ギニ各月別輸送実績ヲ示スベシ

月別	日数	操業機回車	操業機回車	貨車運送	貨車運送	貨車運送	貨車運送	運賃	一日平均	一日平均
十月	二九	三八	一、一四〇	四五、六一三	六、八八〇	一、〇〇六	一、五〇九	一六、四四八	三五	五六七
十一月	二七	三七	一、四一〇	四五、二一六	六、五九〇	一、二六五	一八、九七五	二〇、四七二	四七	七五八
十二月	二八	四三	一、二九〇	四一、一七一	五、五一一	九八九	一四、八三五	一七、八〇六	三五	六三六
一月	二八	四一	一、二五〇	四一、一七一	五、五一一	九八九	一四、八三五	一七、八〇六	三五	六三六
二月	二七	四一	一、二五〇	四一、一七一	五、五一一	九八九	一四、八三五	一七、八〇六	三五	六三六
三月	二九	三七	一、四一〇	四五、二一六	六、五九〇	一、二六五	一八、九七五	二〇、四七二	四七	七五八
四月	二九	三七	一、四一〇	四五、二一六	六、五九〇	一、二六五	一八、九七五	二〇、四七二	四七	七五八
五月	二九	三七	一、四一〇	四五、二一六	六、五九〇	一、二六五	一八、九七五	二〇、四七二	四七	七五八
六月	二九	三七	一、四一〇	四五、二一六	六、五九〇	一、二六五	一八、九七五	二〇、四七二	四七	七五八
七月	二九	三七	一、四一〇	四五、二一六	六、五九〇	一、二六五	一八、九七五	二〇、四七二	四七	七五八
八月	二八	四三	一、二九〇	四一、一七一	五、五一一	九八九	一四、八三五	一七、八〇六	三五	六三六
九月	二八	四三	一、二九〇	四一、一七一	五、五一一	九八九	一四、八三五	一七、八〇六	三五	六三六
合計	二四〇	五五七	一六、七七一	六八、三三二	二〇、九五〇	二、四七二	二一、八三三	四、九二七	四三	三三五

○ 職務ノ要件

昭和二十一年九月二十日運輸大臣宛運輸賃率ノ改定ニ關シテ昭和二十二年一月三十一日物價庁長官ノ認可ヲ得三月一日ヨリ実施ス

昭和二十一年十一月九日取締役弘田伸幸、監査役松本一、主任、取締役ニ小林龍二、監査役ニ大西勝衛ノ就任登記ヲ爲ス

裏面白紙

昭和二十一年十一月二十二日第八十二回營業報告書ヲ運輸大臣、内務大臣、栃木縣知事宛提出セリ、尙今日  
 昭和二十一年年度統計報告書ヲ運輸大臣及内務大臣ニ提出ス  
 昭和二十二年一月十四日運輸大臣ニ施設修繕準備積立金免除申請ヲ爲シ今年三月三日許可ヲ得タリ  
 昭和二十二年三月三十日東京鐵道局長宛栃木縣内陸道用地継続使用願ヲ提出ス  
 昭和二十二年四月八日物價庁長官ニ營業報告書ヲ提出ス尙今該決算後遺滞ナク提出ヲ要スルコト、ナリタリ  
 昭和二十二年五月三十日古河鐵業株式會社所有ノ會社式ヲ持株會社整理委員會ニ譲渡セラレタルヲ以テ名義  
 書換ヲ了シタリ  
 昭和二十二年七月五日物價庁長官ニ運輸上ノ申請ヲ爲シ七月二十五日認可ヲ得八月一日ヨリ之ヲ實施ス

◎ 財產目錄 (昭和二十二年九月三十日現在)

種別	金額	記事	種別	金額	記事
用地費	九七六四六二		用品費	一七五一〇二	
土工費	二五六〇〇〇		計	六七六三五八三	
路面費	〇		主要用品	一九五二五二四	
橋梁費	六三五〇〇		收入未済金	三四、一二九八七	
溝渠費	五五〇〇〇		計	一三、四三、四一〇	
軌道費	二、〇、七、七、五、〇		預備金	一一、一九五八一	
停車場費	三九〇〇〇		退職手当積立金	五、四、五、八〇	
車輛費	二五、〇〇〇〇		身元保証金	三、二、五、一七	
諸運家賃	五、七、〇、〇〇		文持未済金	八八、五、五、六、三八	
通信線設備費	二、〇〇〇〇		計	一、九、三、五、六、三	
計	二三八、五八六、二九		計	二三五、八六六、二九	

◎ 貸借對照表 (昭和二十二年九月三十日現在)

科目	金額	科目	金額
建設費	九、七、六、四、六、二	資本	五〇、〇〇〇、〇〇
主要用品	一、一、六、七、九、五、二	公積金	一〇、五、五、二、〇〇
收入未済金	三、四、一、二、九、八、七	預備金	九、一、八、七、〇〇
計	二三五、八六六、二九	計	二三五、八六六、二九

◎ 損益計算書 (昭和二十一年十月一日至昭和二十二年九月三十日)

科目	金額	科目	金額
雜貨物運賃	三、四、五、五、七、五〇	利息	二、九、九、九、〇〇
收入	二、九、九、九、〇〇	損失	二、九、九、九、〇〇
計	二、九、九、九、〇〇	計	二、九、九、九、〇〇

裏面白紙

合計	五三〇、九九二、九〇
運賃	二、八九、四八七、六〇
厚生費	二、七、二六九、五八
車道費	二、二、一九一、二七
軌道費	四〇、七二二、八八
諸修費	二、五五八、五〇
諸修費	一、二、三四三、五八
借地及借家料	二、二、二二七、八
運賃	九、八五二、〇六
退職手当積立金	八、四五八、〇〇
建設費積却金	二、三九五、四〇
雑費	五〇、〇八二、二
合計	五二九、〇五七、二七

差引当期純益金九百零拾五円六拾參錢也

◎利益金 處分

- 一金九百零拾五円六拾參錢 当期純益金
- 一金零百五拾九円五拾六錢 前期繰越金
- 合計金貳千貳百九拾五円九拾九錢
- 減り處分スルコト在ノ如シ
- 一金貳百五拾円也 法定積立金
- 一金貳千円也 別途積立金
- 一金零千四拾五円九拾九錢 後期繰越金

右之通りニ候也  
昭和二十二年十月三十日

右監査候處相違無之候也

専務取締役 片岡 稔 藏  
 常務取締役 岡田嘉右衛門  
 取締役 小林 龍 二  
 監査役 大西勝衛

裏面白紙

株主名簿 (昭和二十二年九月三十日現在)

株数	氏名	株数	氏名
一三〇	持株會社整理委員會	二〇	高田明
二九〇	石川省三	一〇	横倉勝太郎
二三八	長谷川よし	一〇	荒川宗七
一二〇	田村政太郎	一〇	田村豊
一一七	田村佐重	六	廣澤岩吉
一一〇	横倉幾十郎	五	前澤木玄太
一〇〇	岡田嘉右衛門	二	小林禮治
五五	長谷川展	二	岡田利雄
四〇	木村福次郎		
四〇	熊倉龜太郎		
二五	岡田はま	二五〇	合計株式数
		一九	株主数

裏面白紙

昭和二十一年度（自昭和二十年十月一日起  
至昭和二十一年九月三十日止）

第八拾貳回營業成績

鍋山軌道株式會社

裏面白紙

〇 營業報告書

昭和二十年十月三十日定時株式總會ヲ開キ左ノ件ヲ附議セリ

第一號 第八十一回營業報告書、財産目録、貸借対照表及損益計算書承認並利益金處分案議決ノ件

議決ノ要領 第八十一回營業報告書、財産目録、貸借対照表及損益計算書承認ヲ経テ利益金處分案ヲ議決セリ(河上モ原案ノ通り承認可決)

第二號 別途積立金一部處分ノ件

議決ノ要領 職買神山武男病死ニ係ハル勤続慰勞基金、他給與金總額參千百円ヲ缺積立金ヨリ支出スルコトニ決ス

第三號 取締役全員任期満了ニ付改選ノ件

議決ノ要領 高田嘉之助、弘前伸幸及小林澄治當選就任(河上モ原案ノ通り承認可決)

第四號 代表取締役改選ノ件

議決ノ要領 小林澄治當選就任(重注)ニ決ス

昭和二十一年三月七日臨時株主總會ヲ開キ左ノ件ヲ附議セリ

第一號 臨時財産申告ノ爲メ昭和二十一年度中途打切決算ノ件

議決ノ要領 原案ノ通り承認ス

第二號 取締役及監査役ノ報酬額變更ノ件

議決ノ要領 一ヶ年總額「金四千元」ヲ「金壹万円」ニ變更スルコトニ決ス

第三號 乃至第五號 八都合ニ依リ五月二十日ニ延期ノ決議ヲ爲シテ當日開議セリ

昭和二十一年五月二十日臨時株主總會ヲ開キ左ノ件ヲ附議セリ

第三號 取締役小林澄治氏辭任ニ付キ補選就任ノ件

議決ノ要領 辭任ヲ承認シ片岡隆藏氏後任ニ當選就任ニ決ス

第四號 代表取締役補選就任ノ件

議決ノ要領 片岡隆藏當選就任ニ決ス

第五號 取締役小林澄治氏辭任ニ付慰勞金贈呈ノ件

議決ノ要領 慰勞金贈呈ニ決シ其ノ實行ニ付テハ取締役會ニ一任スルコトニ決ス

株主並株式

当期ニ於ケル株主及株式ノ異動ナシ即チ当期末現在ニ於ケル其ノ總數左ノ如シ

一 株上ノ總數 二十一人

二 株式ノ總額 二千五百株

三 資本ノ金 五万円(全額拂込済)

〇 營業ノ概況

本會ノ主要營業活動ノル野州鑛山、石灰石及石灰ノ資材及勞力ノ不足、終戦後ノ財界ノ混乱等諸般ノ困難ニ対シテ生産量著シク減少シ且ツ鉄道貨車廻リ不良、倉庫等物資ノ輸送難ハ不振ヲ極メタリ、之ニ代リ

ベキ物資ヲ捕獲セリ且ツ当社ノ業績ハ甚シキ打撃ニ依リ結局總額輸送量ニ於テ減八八七四噸、四一%強ノ激減ヲ見

ニ至リタリ

右ノ如キ輸送難ノ減産ニ係リテ是等ノ悪性インフレーションハ諸資材、諸修繕料、人件費等ノ暴騰ヲ来シテ

支金ノ均衡ヲ失スルニ至リノリヨリ以テ貨物運賃年更更ノ認可ヲ受ケ五月一日ヨリ之ヲ實施シテ漸ク窮境ヲ脱

クリ得タリ

然シテ輸送難ノ増加ハ容易ニ望ミ難キ程ノ事情アリ之ニ及シ總テノ經營ハ緊張ノ一途ヲ辿リ特ニ從業員ノ

待遇改善、機關車用燃料ニ付スル手当、軌道改修ノ促進等現行運賃ヲ以テシテハ實現シ難キ見込ノ爲メ九月二

十日附テ以テ再ビ運賃ノ引上ヲ當面ニ申請スルノ念儀ナキニ至リタリ

斯ナル營業難ノ中ニモ本年度ハ次期以降ノ經營ニ重圧ヲ来スベキ経費ノ調整ヲ爲シ總收入一六六六五三、五〇〇

ニ付シ總支出一六五、五九二、八〇〇ニ止メ僅少ナガラ一、〇六〇、七四、益金ヲ計上スルヲ得タリ

各月別貨物輸送実績左ノ如シ

裏面白紙



建設費	六七、九〇、三三三
建設費	四八、五〇、四四五
資本積立金	五〇、〇〇、〇〇〇
法定積立金	一〇、五〇、二〇〇

③ 貸借対照表

(昭和二十一年九月三十日現在)

種類	金額	種類	金額
池田	九、七六、四六二	通商手帳	七、〇〇、四九
工事費	二、五六、〇〇〇	橋	一、〇〇、一〇二
路面費	二、三三、八八五	計	六、七九、〇二二
橋梁費	六、八四、六一	主要用品	四八、五〇、四四五
築道費	六、〇〇、〇〇〇	入木	一〇、六四、三五〇
軌道費	二、三三、五七	清金	三、七六、七二〇
停車場費	一、〇〇、〇〇〇	積立金	一、二六、二五二
留場費	一、〇〇、〇〇〇	現預金	三、一五、二〇九
草料費	五、五八、二五二	計	一四、五、五九、四七五
諸建物費	四、九六、九四二		

④ 財産目録

(昭和二十一年九月三十日現在)

昭和二十一年十一月二十七日第八十一回下半期分ノ統計報告書ヲ鉄道建設統制会長ニ提出セリ  
 昭和二十一年二月二十五日運輸大臣ニ運賃変更申請ヲ与シ今年三月二日認可ヲ得今年五月一日ヨリ之ヲ実施ス  
 昭和二十一年五月二十日取締役代表取締役小林禮治氏任シ取締役兼代表取締役ニ片岡登藏氏任シタルヲ以テ  
 一月二十二日登記ヲ爲ス  
 昭和二十一年六月二十九日監査役岡村政太郎氏任シ七月十日之ヲ登記ヲ爲ス

〇 蔵務ノ案件  
 昭和二十年十月三十日取締役五選ノ結果喜勢取締役ニ小林禮治、常務取締役ニ高田嘉吉衛門當選就任(何レモ重任)ニ決ス  
 昭和二十年十一月八日第八十一回分ノ議決書ヲ運輸大臣ニ提出セリ  
 昭和二十年十一月九日取締役岡田喜勢、片岡登藏、小林禮治及代表取締役小林禮治ノ就任登記ヲ爲シタル  
 昭和二十年十一月十二日代表取締役代表取締役兼代表取締役小林禮治氏任シ取締役兼代表取締役ニ片岡登藏氏任シタルヲ以テ  
 昭和二十年十一月二十四日第八十一回營業報告書ヲ内務省土木局長、運輸省鉄道總務局長及栃木縣知事ニ提出セリ

月別	運送貨物	運送旅客	運送郵便	運送貨物	運送旅客	運送郵便
一月	四、八〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
二月	三、七〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
三月	三、七〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
四月	三、七〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
五月	三、七〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
六月	三、七〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
七月	三、七〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
八月	三、七〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
九月	三、七〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
十月	三、七〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
十一月	三、七〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
十二月	三、七〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇
合計	四、七、八〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇

科目	金額	損	失
收入	一〇、六四三、五〇〇		
借入金	三、七六七、二〇〇		
現預金	一、三六二、五二八		
前期繰越損失金	三、一五二、〇九		
前期繰越損失金	六五、一一八		
合計	一四六、二四五、九三		
償却金	九、一八七、〇〇		
別途積立金	七、八九二、五五		
身元保証金	二、九四九、四〇		
支拂未済金	一、四三八、八七〇		
借入金	五、一六〇、〇〇〇		
借入金	一、三二〇、〇〇〇		
借入金	一、〇六〇、七四〇		
当期純益金	一四六、二四五、九三		
合計		一四六、二四五、九三	

② 損益計算書

(自昭和二十一年十月一日  
至昭和二十一年九月三十日)

科目	金額	損	失
雑貨物運賃	一、二三二、六五五、六		
雑貨物運賃	四三、三三七、九八		
俸給	四、九九二、〇〇		
報酬	六、八〇〇、〇〇		
運搬費	八、六三九、五九〇		
車輜費	三、九二〇、〇〇		
軌道費	九、八二七、六二		
諸修繕費	一、九〇〇、八四一		
諸税	八、五三七、七		
借地及借家料	五、九二九、九		
通債費	一、三五三、一三		
信費	三、一一一、一		
合計		三、一一一、一	

科目	金額	損	失
借入金利息	三、五八三、三三		
雑費	二、二六四、二八		
建設費償却金	二、五〇五、〇〇		
合計		一六五、五九二、八〇	

③ 利益金展分

当期純益金 一六六、六五三、五四  
 前期繰越損失金 一六、六五三、五四  
 合計 一八三、三〇六、九八

一金五十六拾四七拾四錢  
 一金六百五拾五拾八錢  
 一金四百九拾五拾六錢  
 又々五分ヌルコト九、四、シ  
 一金五拾円也  
 一金券百五拾九円五拾六錢  
 右之通りニ候也  
 昭和二十一年十月三十日

専務取締役 片岡 稔 藏  
 常務取締役 岡田嘉右衛門  
 取締役 弘田 伸 幸  
 監査役 杉本 貞 一

右監査候處相違無之候也

裏面白紙

株主名簿	株数	氏名	株数	氏名
九二〇	岡田完三郎	四〇	佐山昇一	
三〇〇	岡田嘉右衛門	二五	岡田はま	
二九〇	石川省三	二〇	高田明	
二二八	長谷川よし	一〇	横倉勝太郎	
一一〇	田村政太郎	一〇	荒川宗七	
一一七	田村佐重	一〇	田村豊	
一一〇	横倉幾十郎	六	廣澤岩吉	
〇二	小林禮治	五	前澤木玄太	
五五	長谷川展	二	岡田利雄	
五〇	弘田伸幸			
四〇	木村福次郎	二五〇	合計株数	
四〇	熊倉亀太郎	二一	株主数	

株主名簿

(昭和二十一年九月三十日現在)

裏面白紙

昭和二十年 度

(自昭和十九年十月一日  
至昭和二十年九月三十日)



第八拾壹回營業成績報告書

鍋山軌道株式會社

◎ 營業報告書

○ 株主總會

昭和十九年十月三十日定時株主總會ヲ開キ左ノ件ヲ附議セリ

第一號 第八十回營業報告書、財産目錄、貸借對照表及損益計算書承認並利益金處分案議決ノ件

議決ノ要領 第八十回營業報告書、財産目錄、貸借對照表及損益計算書ノ承認ヲ經テ利益金處分案ヲ議決セリ（何レモ原案ノ通り承認可決）

第二號 別途積立金一部處分ノ件  
議決ノ要領 栃木警防援護會事業資金寄附金千五百圓ヲ該積立金ヨリ支出スルコトニ決ス

第三號 監査役全員任期滿了ニ付改選ノ件  
議決ノ要領 杉木貞一氏及田村政太郎氏當選就任（何レモ重任）ニ決ス

○株主竝株式

當期間ニ於ケル株主及株式ノ異動ナシ即チ當期末現在ニ於ケル其ノ總數左ノ如シ

- 一 株主ノ總數 二十一人
- 二 株式ノ總數 二千五百株
- 三 資本金 五萬圓(金額拂込済)

○營業ノ概況

當社ノ主要輸送貨物タル野州鍋山産ノ石灰粉、石灰石及苦灰石ハ資材及勞力ノ不足、戰災及終戰ニ因ル需要量低減等ノ事由ニ依リ生産量著シク減少シ之等貨物輸送量ハ前年度ニ比シ五二%弱ノ激減ヲ示セリ猶其ノ他ノ貨物輸送量ニ於テモ前年度ニ比シ四九%弱減少シ總貨物輸送量ニ於テ五二%弱ノ激減ヲ示セリ本年度ニ於ケル運賃總額ハ貨物輸送量ニ於テ著シク減少シタル爲前年度ニ比シ金四萬八千四百五拾八圓余五二%弱ノ激減ヲ示セリ

前年度來其ノ筋ニ申請中ノ貨物營業料程變更運賃引上ハ戰災其ノ他ノ事由ニ依リ未ダ認可ニナラザル爲貨主側ヨリ運賃補給金トシテ金四萬六千參百拾六圓餘ヲ受人雜收入中ニ繰入レタリ

運賃關係收入ハ前記ノ如クニシテ樂觀ヲ許サズ且需品價格ノ騰貴、機關車ノ修繕費増額等ノ主ナル理由ニ依リ支出總額ノ増加ヲ餘儀ナクサレタルヲ以テ極力經費ノ節約ニ努メタルモ結局金貳千參百參拾參圓餘ノ損失金ヲ計上スルノ已ムナキニ至レリ株主各位以テ諒セラレントトフ希フ

各月別貨物輸送成績左ノ如シ

月別	營業日數	機關車運轉回數	貨車運轉回數	貨車走行行數	貨物輸送應數	貨物輸送噸數	運賃	一日平均輸送應數	一日平均運賃
十月	三〇	二五	三四〇	一、五五〇	四、三三〇	四、五七〇	六、七七一	一〇八	三、六
十一月	二九	八五	一、二五〇	四、六〇〇	二、三六〇	三、七三〇	四、九九五	八	一、七
十二月	三一	九〇	一、三三七	五、五〇〇	二、九三〇	四、三三五	五、五六一	八七	一、八

附記 本表ニ於ケル各月分ノ貨物輸送應數及運賃ハ其ノ月分ノ實績ニシテ單位  
(應又ハ圓未満ノ量又ハ額ヲ四捨五入ノ方法ニ依リ計上シタルモノナリ)

一月	三〇	六	二、五〇	一、二四	三、七〇	二、八九	四、一五	四、八一	六	一〇
二月	二一	五	一、七〇	七七	三、七〇	一、五〇	三、一〇	三、三〇	七	一〇
三月	三一	二〇	三、〇〇	一、五〇	四、五〇	二、八四	四、〇〇	五、九〇	九	一〇
四月	二四	一〇	一、六〇	七三	三、三〇	一、四九	二、八五	三、〇〇	六	一〇
五月	二八	六	一、八〇	七三	三、八〇	一、五〇	三、二五	三、七〇	五	一〇
六月	二八	九	一、四〇	六三	一、八九〇	一、九一	一、九四	二、七〇	四	一〇
七月	二三	三	九〇	三三〇	二、四〇〇	八五	三、五五	一、七〇	三	一〇
八月	一九	三	九〇	二八五	八、五〇	六三	九、一〇	一、二八	三	一〇
九月	一九	四	一、三〇	四八	一、三、四〇	九〇	一、三、三〇	一、九三	四	一〇
合計	三一三	八四	二、四、四〇	一〇、四九	三、四、〇七	二、〇六	三、四、〇七	四、四、五七	六九	一〇

○庶務ノ要件

昭和十九年十一月九日 監査役杉本貞一及田村政太郎ノ就任登記ヲ爲シタリ  
 昭和十九年十一月十日 役員監査役杉本貞一及田村政太郎就任登記届書ヲ鐵道  
 軌道統制會長ニ提出セリ  
 昭和十九年十一月二十七日 第八十回營業報告書ヲ内務大臣、運輸通信大臣及栃  
 木縣知事ニ提出セリ  
 昭和十九年十一月二十七日 第八十回統計報告書ヲ鐵道軌道統制會長ニ提出セ  
 リ

◎財産目録

(昭和二十年九月三十日現在)

種別	金額	摘要
川地費	九、七六四、六一	
土地費	二、五六〇、〇〇	

假 拂 金	收 入 未 済 金	主 要 用 品	費								
			備 品 費	通 信 線 路 費	諸 建 物 費	車 輛 費	停 留 場 費	軌 道 費	橋 梁 費	路 面 費	
四、二九四九七	七、六二四三一	三六、〇六四九六	一、〇〇一〇二	七三〇四九	五、一八九四二	二六、七〇七五二	四六〇〇〇	二二、四九〇七〇	六二五〇〇	七六九六一	一〇八八五
			計								
			七〇、四〇七二三								

六

預金及現金		負債	
合 計	額	合 計	額
二〇、六八九一二		借入金	五六、六〇〇〇〇
一三九、〇八〇五九		支拂未済金	二、一五五二八
		身元保證金	二九四九四
		別途積立金	一〇、九九二五五
		償却積立金	九、一八七〇〇
		法定積立金	一〇、五〇二〇〇
		資本金	五〇、〇〇〇〇〇
		建設費	七〇、四〇七二三
		主要用品	三六、〇六四九六
		收入未済金	七、六二四三一
		假拂金	四、二九四九七
		預金及現金	二〇、六八九一二
		當期損失金	二、三三三二四

七

◎貸借対照表

(昭和二十年九月三十日現在)



◎損益計算書	
利	損
科目	科目
金額	金額
納稅積立金繰入	軌道費
雜收入	車輛費
貨物運賃	救恤費
四七、二三六二	運搬費
四五、四五六〇一	報酬金
六五〇〇〇	備給
	俸給
	五、九九一〇〇
	三、六七六〇〇
	四八、八一七〇五
	六七一九三
	七、四三四四五
	九、〇四六八〇
合計	前期繰越金
一四一、四一三八三	一、六八二〇六
	合計
	一四一、四一三八三

八

◎損失金處分	
損	失
科目	科目
金額	金額
諸修繕費	諸修繕費
五九七七六	諸修繕費
諸税金	諸税金
二、七九五四〇	諸税金
借地及借家料	借地及借家料
一、二二九三二	借地及借家料
通借費	通借費
一、一四四二〇	通借費
借入金利息	借入金利息
一、二一八五五	借入金利息
雜費	雜費
一〇、七一六六	雜費
建設費償却金	建設費償却金
二、〇〇〇〇〇	建設費償却金
合計	合計
九三、二二九六三	九五、五六二八七

差引損失金貳千參百參拾參圓貳拾四錢也

◎損失金處分

一金貳千參百參拾參圓貳拾四錢

一金壹千六百八拾貳圓六錢

前期繰越金

前期損失金

九

差引損失金六百五拾壹圓拾八錢

右之通りニ候也

昭和二十年十月

翌期繰越金

一〇

専務取締役

小林禮治

常務取締役

岡田嘉右衛門

取締役

弘田伸幸

右監査候處相違無之候也

監査役

杉本貞一

同

田村政太郎

株主名簿

(昭和二十年九月三十日現在)

差引損失金六百五拾壹圓拾八錢

右之通りニ候也

昭和二十年十月

翌期繰越金

専務取締役

小林禮治

常務取締役

岡田嘉右衛門

取締役

弘田伸幸

右監査候處相違無之候也

監査役

杉本貞一

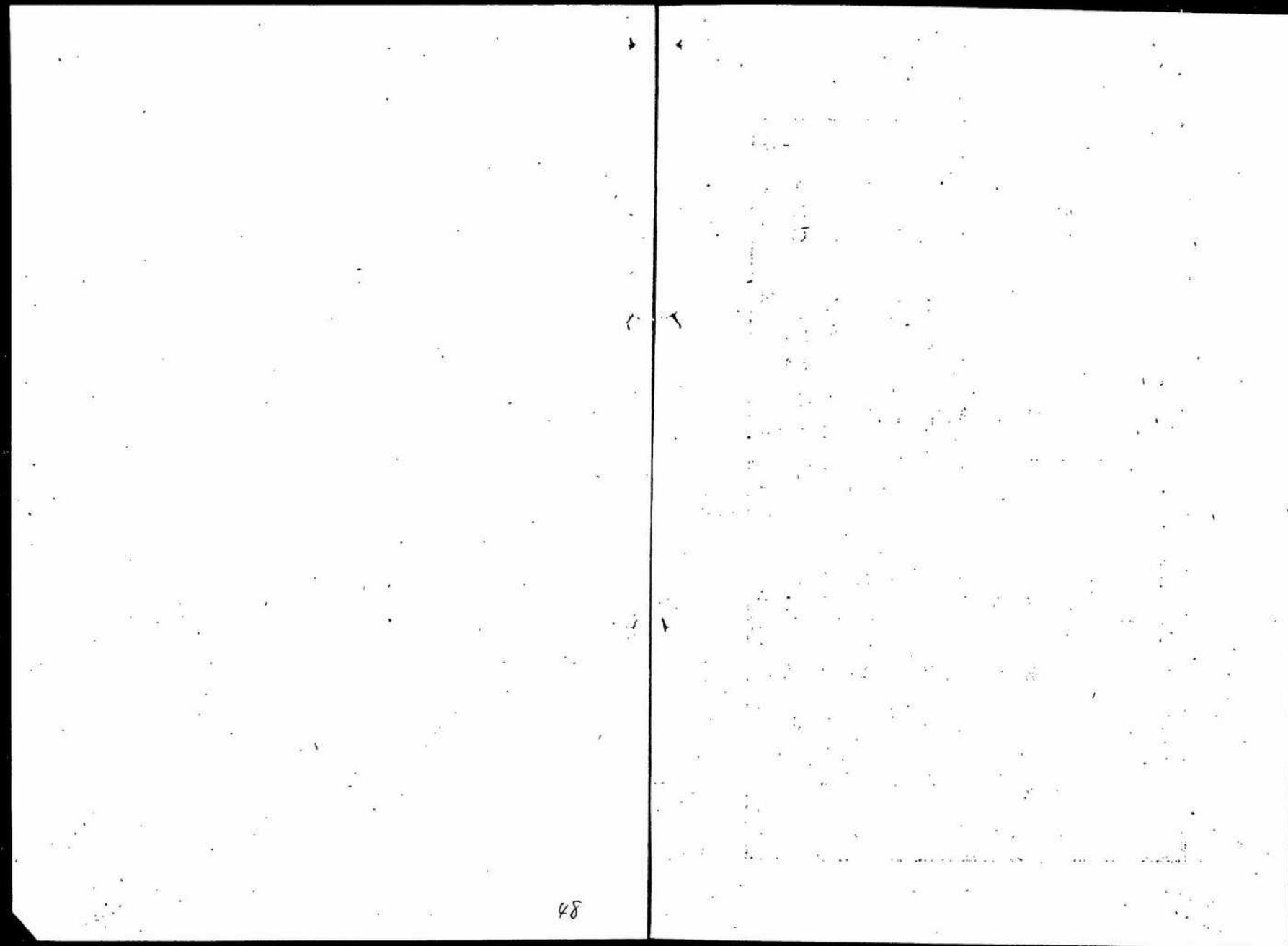
同

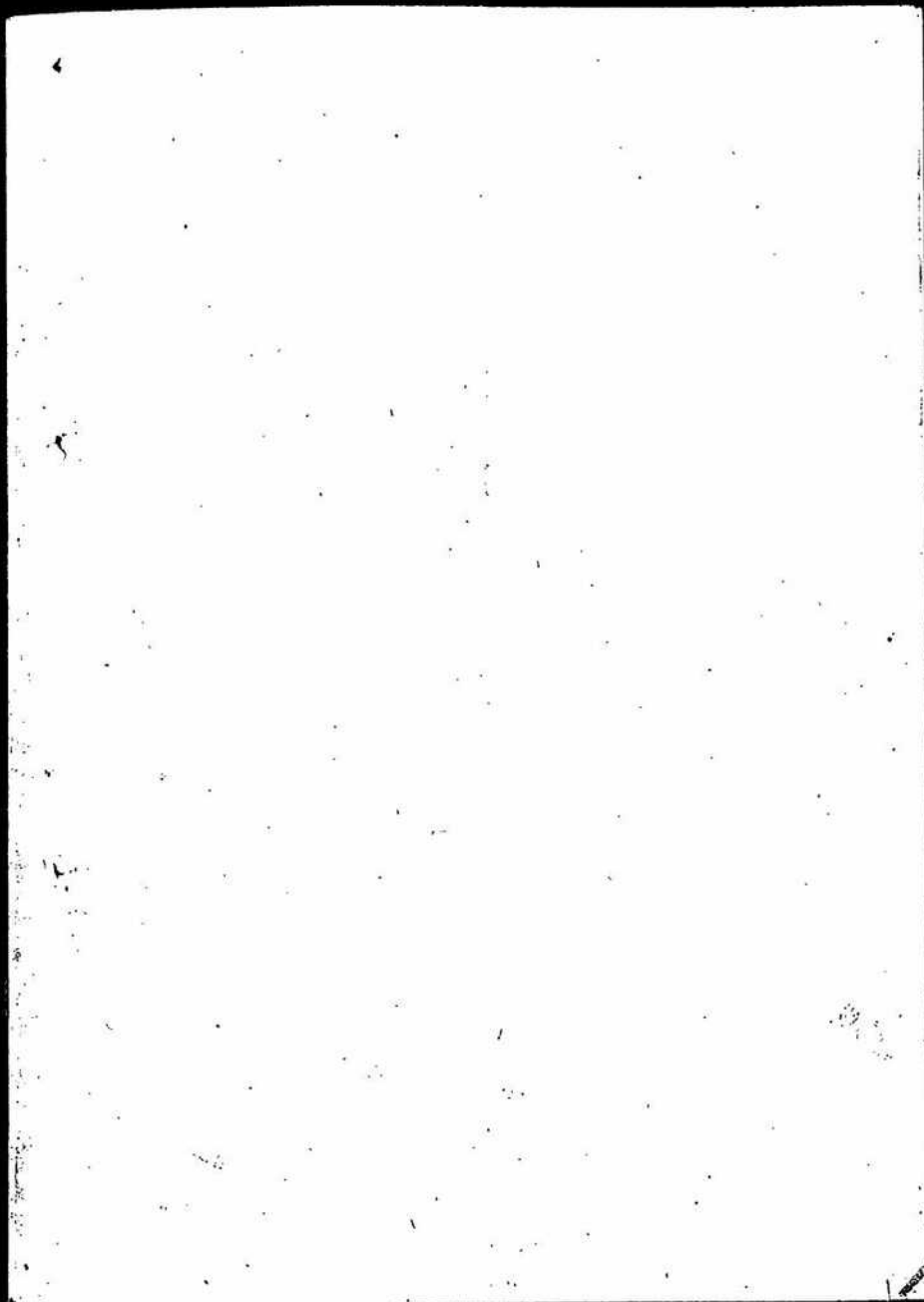
田村政太郎

株主名簿

(昭和二十年九月三十日現在)

株 数	氏 名	株 数	氏 名
九二〇	古河製鋼株式會社 代表取締役古河從純	四〇	佐山昇一
三〇〇	岡田嘉右衛門	二五	岡田はま
二九〇	石川省三	二〇	高田明
二二八	長谷川よし	一〇	横倉勝太郎
一二〇	田村政太郎	一〇	荒川宗七
一一七	田村佐重	一〇	田村豊
一一〇	横倉幾十郎	六	廣澤岩吉
一〇二	小林禮治	五	前澤木玄太
五五	長谷川展	二	岡田利雄
五〇	弘田伸幸		
四〇	熊倉龜太郎		
四〇	木村福次郎		
合計	株式數 二,五〇〇	株主數 二二	





(三)

買入希望者関係表

氏名	住 所	地位 姓名 氏名	買入希望数量 株数	現在所有数量 株数	合 計 株数
大塚利部	栃木県下都賀郡赤松町一七七	役員	二五	一〇	二五
小宮山小	栃木県下都賀郡赤松町一七七	役員	二五	一〇	二五
山中や三	栃木県下都賀郡赤松町一〇五		二五	一〇	二五
片岡万三	栃木県下都賀郡赤松町一七七	役員	二五	一〇	二五
寺内徳松	栃木県下都賀郡赤松町一〇三	役員	二五	一〇	二五
寺内勝三		役員	二五	一〇	二五
大三田勝	栃木県下都賀郡赤松町九〇一	役員	二五	一〇	二五
梅上梅吉	栃木県下都賀郡赤松町一三五七	役員	二五	一〇	二五
玉野森一助	栃木県下都賀郡赤松町一三五七	役員	二五	一〇	二五
寺内 胖	栃木県下都賀郡赤松町一三五七	役員	二五	一〇	二五
河田佐市	栃木県下都賀郡赤松町一三五七	役員	二五	一〇	二五
寺内 胖	栃木県下都賀郡赤松町一三五七	役員	二五	一〇	二五
山中 正巳	栃木県下都賀郡赤松町一三五七	役員	二五	一〇	二五
神山 小四郎	栃木県下都賀郡赤松町一三五七	役員	二五	一〇	二五
神山 三郎	栃木県下都賀郡赤松町一三五七	役員	二五	一〇	二五
石塚 彦雄	栃木県下都賀郡赤松町一三五七	役員	二五	一〇	二五
厚木 貞一		役員	二五	一〇	二五
櫛村 巳三吉		役員	二五	一〇	二五
新村 廣光	七九		二五	一〇	二五
横山 藤作	大田梅沢九五五		二五	一〇	二五
野中正男	栃木県下都賀郡赤松町一三五七	役員	二五	一〇	二五

裏面白紙

星野正

氏名	住 所	會社名 株主名 ト關係	買入希望数量		現在所有数量		合 計	
			株数	百分比	株数	百分比	株数	百分比
丸山年雄	栃木県北田町	従業員	二五	一〇			二五	一〇
三岡敏治	栃木県下都賀郡寺尾村 大字船山一三七		二五	一〇			二五	一〇
塚原芳之助	大字小栗三〇二 世田村		二五	一〇			二五	一〇
前田一男	大字小栗八八七 中村		二〇	〇八			二〇	〇八
大島一利	方三三		二〇	〇八			二〇	〇八
亀田喜一	大字船山一〇七 寺尾村		二〇	〇八			二〇	〇八
伊藤博	大字船山四八七 吹上村		二〇	〇八			二〇	〇八
高久光夫	栃木市柿町一六		一〇	〇四			一〇	〇四
神山カネ	栃木県下都賀郡吹上村 大字吹上七九二		一〇	〇四			一〇	〇四
篠崎アキ	大字九四五八 寺尾村		一〇	〇四			一〇	〇四
伊藤十力	栃木県下都賀郡吹上村 大字船山四八七	従業員	一〇	〇四			一〇	〇四
計 三三			七四五	三〇			七四五	三〇
片岡稔哉	栃木市河合町八四九	専務取締役	二五	一〇			二五	一〇
小林龍二	栃木市高町三八七	取締役	二五	一〇			二五	一〇
大西勝清	東京都四谷区四谷三丁目	監査役	二五	一〇			二五	一〇
計 三			七五	三〇			七五	三〇
山中勝與	栃木市片柳町一〇三四	地方居住者	二五	一〇			二五	一〇
片岡キヨ子	栃木市境町一六七		二五	一〇			二五	一〇
大栗萬藏	栃木県下都賀郡寺尾村 大字梅沢九八八		二五	一〇			二五	一〇
佐山昇一	栃木市八船町三九		二五	一〇			二五	一〇
岡田利雄	栃木市上野門町一		二五	一〇	二	〇〇八	二五	一〇
小林レツ	栃木市万町三六		二五	一〇			二五	一〇

裏面白紙



裏面白紙

氏名	住 所	會社名 地位又ハ會社 ト關係	買入希望數量		現在所有數量		合 計
			株 數	総株數 に百分比	株 數	総株數 に百分比	
岡田 寛	栃木市左門町一	地方居住者	二五	一〇			二五 一〇
岡田 寛	栃木市沼北田所一七七		二五	一〇			二五 一〇
坂本 正夫	栃木市東町一〇		二五	一〇			二五 一〇
松井 留吉	栃木市左門町一		二五	一〇			二五 一〇
岡田 忠弘	栃木市左門町一		二五	一〇			二五 一〇
岡田 良弘	栃木市左門町一 大字鍋山四四〇		二五	一〇			二五 一〇
岡田 園	"		二五	一〇			二五 一〇
片岡 左久	栃木市境所一六七		二五	一〇			二五 一〇
廣橋 保吉	栃木市左門町一 大字鍋山三一〇		二五	一〇			二五 一〇
古橋 為吉	栃木市左門町一 大字鍋山三一〇		二五	一〇			二五 一〇
片柳 光司	栃木市下都賀郡寺尾村 大字鍋山四四七	地方居住者	二五	一〇			二五 一〇
白石 琴	" 四四九		二五	一〇			二五 一〇
田中 盛	" 四四〇		二五	一〇			二五 一〇
金田 和一	栃木市下都賀郡豊田村 大字小葉四二一		一七	六八			一七 六八
計 二〇			四九〇	一九六			四九〇 一九六
合計 五六			一三二〇	四二四	二〇〇	一三二〇	一三二〇 四二四

株式賣却予約廣告

当社發行株式で親に持株會社整理委員會で所有する株を左記に依つて賣却いたします。ご希望の従業員は當社へ申込下さい。

記

- 一 賣却株式 當社發行株額面全貳拾円金額拂込済
- 二 賣却一株の金額は未定で持株會社整理委員會の決定によること
- 三 代金は一時掛但し封鎖拂でも差支ありません
- 四 申込期日 昭和二十三年三月一日から同年三月五日まで
- 五 申込数が超過の場合に按分による決定します

昭和二十三年二月二十九日

鍋山軌道株式會社

裏面白紙

第一第七三六號

證券第一部長



第一課長



昭和二十三年六月三十日

證券處理調整協議會

議長

笹

山

忠

夫



持株會社整理委員會

委員長 笹 山 忠 夫

従業員處分調整報告承認の件

六月二十三日付第二一三號を以て報告のありました左記指定證券  
従業員處分調整報告は七月二日第五六回協議會において申込漏り承認が  
ありましたから御通知申し上げます。  
追記左記株式の受渡は来る七月二十日當協議會に於て實施致します  
から当日までに証券を御送付下さい。  
尚御参考までに會社に交付致しました、通知書を添附致します。

證券處理調整協議會

裏面白紙

記

銘

納

株

家

譲渡前裕

罰

當

龜山軌道株式會社株式

一三一〇株

二五圓

由込通り

證券處理調整協議會

裏面白紙

法

錫山鉛道株式会社概要

一、設立  
 明治三〇年一月一日  
 資本金 五〇,〇〇〇円 (拂込済)  
 公稱 五〇,〇〇〇円  
 總株式数 二,五〇〇株  
 總株主数 一九名

支店 西村

2500

昭和23-6-11  
 協中会

- 三、事業 貨物輸送事業
- 四、従業員数 三三名
- 五、特集の別 制限会社
- 六、所在地 本社 栃木県下都賀郡 錫山一橋木取町 軌道一五ノ口
- 五、利益及配当率

決算期	利益金(千円)	正味利益率(年)%	配当率(年)
自昭和二〇年一月一日 至昭和二二年九月三十日	一	—	—
自昭和二二年一月一日 至昭和二三年九月三十日	二	—	—
自昭和二三年一月一日 至昭和二三年四月三十日	(一)	—	—

貸借対照表

二三四三〇 四單位千円

借方	金額	貸方	金額
建設費	八二	資本金	五〇
主要用品	一〇六	法定積立金	一一
未収入金	五二	諸積立金	一八
仮拂金	二七	退職手当積立金	五
預金現金	二〇五	未拂金	八七
当期損失	二〇	借入金	一〇
合計	二九二	前期繰越金	二九二

裏面白紙

議案第三六號附屬  
昭和二十三年七月二日第五六回會議(上)

錫山軌道株式會社株式從業員分劃當報告

- 一 擬出機内 HCLC 一三〇株
- 二 代理各邊 一 議決株數 二五円(六月二日會議決定)
- 三 中上各付期間 六月四日より二五日まで

三 買受申請概要

一 買受申請者數並に買受申請株數(從業員總數 三三名)

買受申請者數	總出汁%	買受申請株數	議決株數に對する%	買受申請株數	買受申請株數
後業員 三三	一〇〇%	七四五	五六・九%	一五	一〇
役員 三		七五	五・七%	二五	二五
地方人 二〇		四九〇	三七・四%	二九	二五
計 五六		一三二〇	一〇〇%	二九	一七

四 前並要領  
申請通り

裏面白紙

第一第 號

昭和廿三年 月 日



鐵道株式會社

事務局長 片岡 亮一

貴社株式従業員議会の件

豫て御打合せの首標の件に關し、本日左記の通り決定致しましたから各買受自  
込者に御知らせ願います。  
議会の受渡は来る七月二十日當務議會に於て實施致しますから御手数乍ら貴  
社に於て各買受人より代金取經めの上當日御持參願います。

一 譲渡株數 一、三〇〇 株

二 譲渡價格 二五〇 圓

三 買受人割當株數 申込通り 別紙の通り

追而(1)證券受領の際は本狀を御提示下さい。代理人の節は本狀並に會社登  
行委任狀)

(2)代金は現金拂の場合に、支拂場所を東京都内金融機關に指定せる銀行  
小切手(支拂保證小切手當務議會宛送金小切手)にて、又封鎖拂の場  
合は支拂場所を都内金融機關に指定せる當務議會宛銀行封鎖支拂票又  
は郵便爲替にて願度。

裏面白紙

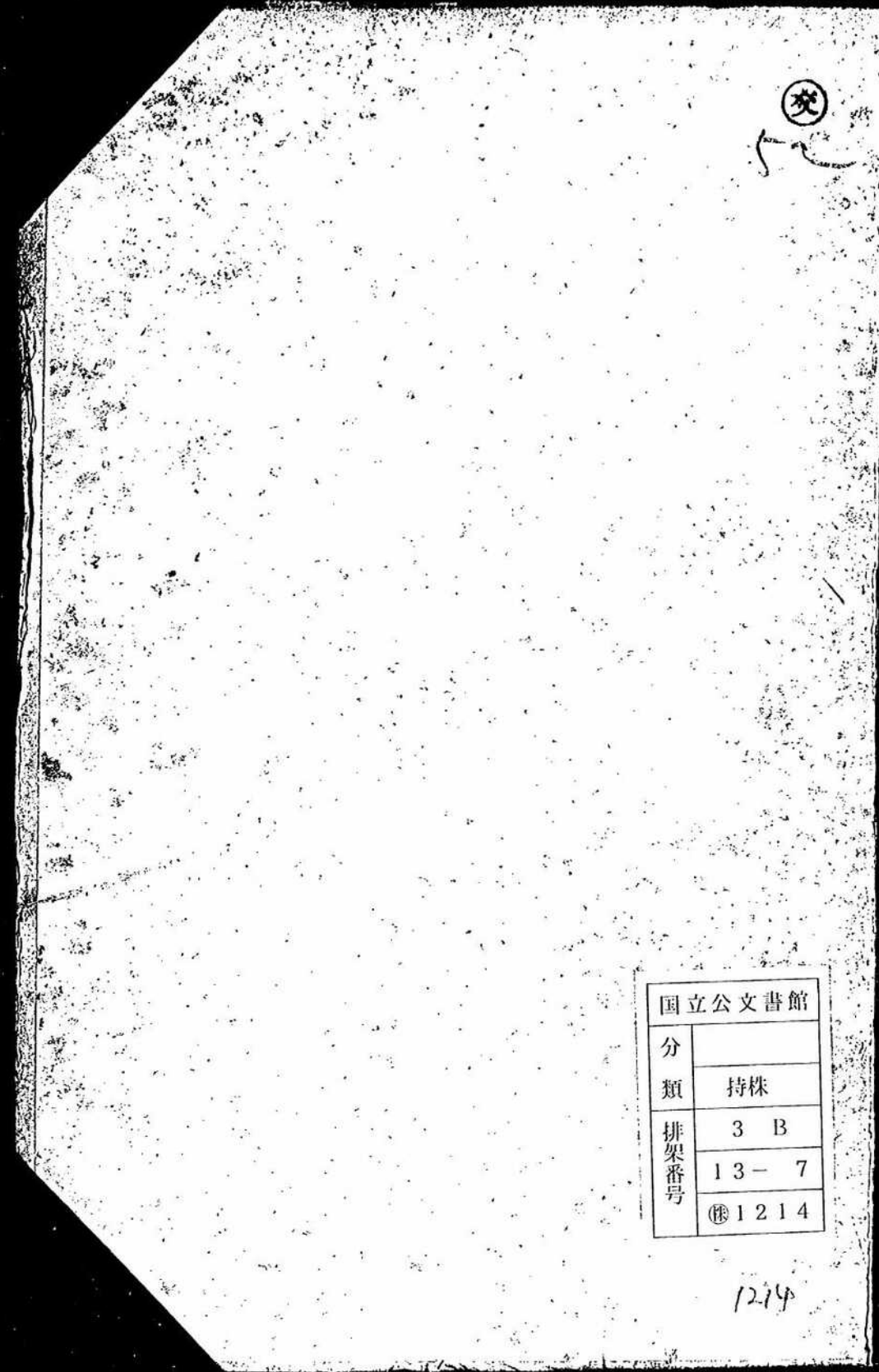
裏面白紙



58



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



交

乙  
株式  
譲受財産  
一

国立公文書館	
分類	持株
排架番号	3 B
	13-7
	⑩ 1214

1214

